



令和4年度学力向上推進プロジェクト事業

★守谷市立守谷中学校・国語★

11月25日（金）「令和4年度学力向上推進プロジェクト事業に係る授業力ブラッシュアップ研修」第2回授業発表会が行われました。県南管内全14市町村から参加者が集う、約3年ぶりの大規模な研修会となりました。第2学年「走れメロス」の授業では「ピラミッドストラクチャー」という思考ツールを用いながら、根拠を明確にして自分の考えを交流する生徒の姿が見られました。全体会では、文部科学省国立教育政策研究所学力調査官の加藤咲子先生から本時の授業についてと全国学力学習状況調査の結果を踏まえた授業改善についての指導助言をいただきました。今回の成果と課題は、第3回学力向上推進協議会等で広く伝えていきます。



★龍ヶ崎市立八原小学校・算数★

研究主題を「根拠を基に筋道を立てて考え、表現する力を育てる算数科学習指導の在り方～自分の考えを振り返りながら、数学的に表現し伝えあう活動を通して～」と設定し、研究を深めました。

12月1日（木）の授業発表会では、児童がICT機器を活用し、根拠を明確にしたり、順序よく考えをまとめたりして、グループの仲間と話し合う姿がありました。さらに、児童一人一人が自分の考えを再構築した後、学級全員で考えを共有していました。



両校共に第1回での講師指導や授業反省を踏まえ、第2回の授業発表会に向けて指導案検討などの準備を進めてブラッシュアップしていきました。両校の当日の授業の様子は「授業力ブラッシュアップ動画」として、教育情報ネットワークにて後日配信される予定です。

日本語サポーターによる日本語習熟度に応じたオンライン等を活用した日本語支援事業

【龍ヶ崎市立城西中学校、龍ヶ崎市立城ノ内中学校、つくば市立大穂中学校、つくば市立学園の森義務教育学校、守谷市立御所ヶ丘中学校、稲敷市立江戸崎中学校、阿見町立朝日中学校、阿見町立竹来中学校 河内町立かわち学園】

令和2年度から、県グローバル・サポート事業の一環として、筑波大学と連携し、日本語指導を必要とする生徒のためのオンラインによる日本語指導を行っています。今年度は支援を希望する生徒が増え、上記9中学校に在籍する17名が学習支援を受けています。

支援にあたっては、筑波大学の日本語コーディネーターが中心となってカリキュ



ラムを設定し、学生（日本語サポーター）が、それぞれの生徒に週3回の取り出し型の個別指導をしています。対象となる生徒の日本語能力アセスメントについては、各学校の教員が実施し、その結果に基づいて必要な支援が進められるよう、学校とサポーター間で情報を共有し、課題を協議しながら取り組んでいます。生徒は、実際の場面で日本語を使ってコミュニケーションができるようになることを目指し、積極的に日本語学習に取り組んでいます。

小中学校における遠隔教育実証研究事業 ピンポイント型

【高度な専門性をもつ人材による遠隔授業】

つくばみらい市【配信校：伊奈東小学校から 受信校：伊奈東中学校へ】

外国語（英語）英語スペシャリスト教員による質の高い授業を配信し、生徒の英語力向上を目指す本実証研究は4年目になりました。

今年度は、単元計画をさらに工夫し、市内在住の外国人や台湾の中学生とコミュニケーションを行う場を設定し、より明確な目的意識と相手意識をもった言語活動が展開されました。12月7日（水）に、一般教職員向けに初めて配信した授業公開では、「つくばみらい市在住の外国人の方々にゴミの分別の仕方を説明する」という目標を達成するために、主体的に英語を学ぶ姿が見られました。

つくば市【配信校：茨城工業高等専門学校から 受信校：高崎中学校へ】技術（プログラミング）

11月9日（水）の高崎中学校のアドバンスクラスでは、奥出真理子 教授が授業を配信し、生徒はロボホンのセンサーを活用して、実生活に役立つプログラムを考えることができました。技術科「測定・計測による問題解決」の学習の特性に応じた学習が展開でき、生徒はねらいに即して生き生きと活動していたとの声が、参観したつくば市の先生から聞こえました。



いばらきサイエンスキッズ育成事業

「小学校における理科専科教員等による授業公開」に係るモデル校公開授業

★牛久市立神谷小学校・理科★

神谷小学校では、「一人残さず質の高い学びを保障する授業を目指して～特に「ひと」「もの」とのかかわりを大切にしたい授業づくり～」という研究テーマのもと、児童の学習への関心や意欲を高める質の高い課題の工夫と、児童の協働的な学びを引き出す指導の工夫を日頃から実践しています。

11月18日（金）の公開授業は、無色透明で同じように見える5つの液体について、それぞれ何が溶けているのかを見分ける方法を、根拠を明確にして考える活動でした。既習内容や各溶質に関する資料を活用した活発な意見交換が行われ、次時の実験に向けた計画を意欲的に立案する様子が見られました。参観後の研究協議では、児童の考えをつなぎ、深めるための問いかけや問い返しについて、授業実践を基に熱心な意見交換がなされました。今後の理科授業の改善につながる有意義なモデル校公開授業研究会となりました。



研究に取り組んでいただいた学校の皆様、実践していただいた先生方、ありがとうございました。

